

「 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告」

— 国際的な IVIVE モデル研究について学ぶ —

黒田 雄介(日産化学株式会社 生物科学研究所)

今回の 2023 SOT Annual Meeting は現地テネシー州ナッシュビル及びオンラインのハイブリッド形式で開催されました。昨年度までは新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、弊社でも海外出張は自粛傾向にありましたが、今回の学会派遣では現地参加が許可され、久しぶりの海外の学会参加は非常に楽しみでありました。

初日に開催された教育コースでは、午前中は「Nontraditional *In Vivo* Animal Models in Developmental, Reproductive, and Juvenile Toxicology」を受講し、午後に今回の派遣の指定セミナーである「*In Vitro* to *In Vivo* Extrapolation (IVIVE) Strategy and Guidance across Organ System Toxicities」を受講しました。米国 EPA は 2035 年までに哺乳類の動物実験をなくすことを目標とする方針を公表し、動物実験の代替を進む動きを示しており、欧州においても動物実験の回避が積極的に求められています。私の業務は主に農薬の開発研究であり、動物実験による安全性評価を専門としていましたが、代替法の重要性が高まる中で、最近では *in vitro* 評価に携わることが増え、技術向上や専門知識の学習に努めております。そのため、今回のセミナーにはとても興味を持ち、派遣へ応募した動機となりました。

2 日目以降の講演においても、次世代の安全性評価として IVIVE や Physiologically Based Pharmacokinetic (PBPK) モデルの研究にフォーカスしたシンポジウムやワークショップセッションが組み込まれており、ポスタータイトルにおいてもこれら単語を多く見かけました。今回の学会に参加できたことで、海外での動向を知ることができ、またこの分野に関して多く勉強することができました。知識不足でいまだに十分な理解ができていないとは言えませんが、講演内容をよく復習し、生涯教育講習会で学会へフィードバックしたいと思います。このような非常に貴重な機会を与えてくださった日本毒性学会教育委員会および事務局の皆様、並びにご支援いただいた先生方へは心より感謝申し上げます。

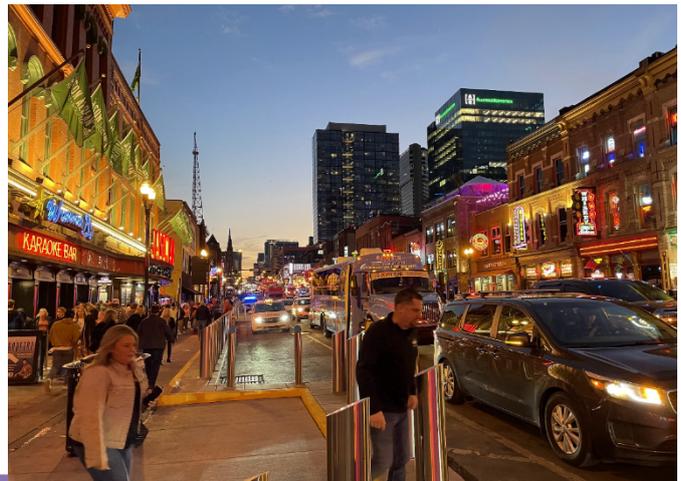
COME MEET WITH US

**SOT 2023**

**Society of Toxicology 62nd  
Annual Meeting and ToxExpo**

Where : Nashville Music City Center  
Nashville, Tennessee  
Booth 1421

Date : March 19-23, 2023



開催地のナッシュビル市はカントリーミュージックの中心地として知られ、会場の名称も「ミュージックシティセンター」、会場近くの通りはライブハウスが並び、観光客で賑わっていました。